

保育施設における壁面構成の現状と今後の役割及び方向性

岡谷 崇史*

Current status and future role and direction of wall surface composition in childcare facilities

Takafumi OKATANI

要約

本研究は、保育現場で日常的に扱われている壁面構成を、筆者の専門領域である造形教育の視点から考察した。はじめに壁面構成の定義と解釈、壁面構成が歴史上どのように扱われてきたのかを述べ、次に保育者を対象に実施したアンケート調査の回答結果を踏まえて、製作されている現状を検証し分析した。さらに製作上の留意すべき点を提言し、壁面構成の在り方や今後の役割、あるべき方向性を見出した。

「キーワード」壁面構成、造形教育、方向性

[Abstract]

In this study, we considered the wall composition that is routinely used in childcare facilities from the perspective of modeling education, which is my specialty. First, the definition and interpretation of wall surface composition, how it has been treated in history, and then based on the results of a questionnaire survey conducted with childcare workers, the current state of production was verified and analyzed. Furthermore, proposed points to be noted in production, ideal methods of wall composition, future prospects, and ideal directions are discussed.

[Keywords] Wall composition in education environments, Modeling education, future directions for wall composition in education environments

はじめに

幼稚園らしさ、保育所らしさを感じる要素である「壁面構成」は、玄関内の壁面、廊下・階段、子どもたちが一日中過ごす保育室、トイレなどに製作されている。そして、今日、壁面構成は、どの幼稚園・保育所でも普通に目にすることができ、教育・保育者からも、子どもたちからも園内環境の一部を成す当然の事物として捉えられている。ただ保育者にとって、月ごとや季節ごとに変える壁面構成を製作するのが、苦痛になっているケースが多い。実際のところその役割をはっきりと認識しないままに、壁面を装飾することのみが目的になってしまっている場合も多いことは否めない。

「壁面構成」という用語は、『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園要領・指針』の3令に、示されていない。壁面に構成する、壁面に装飾するというので、長い期間、いわゆる業界用語として、保育者間で広く使われてきたものとする。一部の保育雑誌では、デザインの原画や製作する方法などが取り上げられたり、インターネット上では原画のみならず、出来上がったパーツを販売したりしているのを散見する。またフリマアプリサービスでも、壁面構成によって作られたものが売買されている時世である。一部の保育施設で、華美で過度な装飾を施す傾向がある。しかし、近年研究者から過度な装飾に対する警鐘があり、随分見直されてきたように思える。それでもなお保育の環境を考えていく上で、こうした壁面にはどのような意図があるのか。もしくは、子どもの学びや育ちにどのようなプラスの影響があるのか。あまり教育的な意図がなく製作していること多いように思われる。

保育現場では、「壁面構成」と「壁面装飾」の言葉が混在して使われることが多い。そもそも定義や解釈が、曖昧模糊の状態が続けられているのである。

『幼稚園教育要領総則』において「幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする。」[1]と明記されているように、環境は保育実践を構成する非常に重要な要素となる。

1. 壁面構成の揺籃期と歴史的変遷

我が国では、いつ頃から保育現場において壁面構成の概念が出現し、それはどのような目的があったのか、過去の文献と先行研究から遡ってみる。鈴木法子(1997)[5]によれば、我が国の保育史においては、1877(明治9)年の東京女子師範学校附属幼稚園開設の折に、黒板が登場したことから「壁面構成」の歴史が始まったとある。この年に刊行されたドウアイ著関信三訳『幼稚園紀』には「会場ノ装飾ヲ要ス」と記され、例を挙げ、その頃から「装飾は保育室に欠かせないこととして、幼稚園の揺籃期から認識されていた。」としている。そして、1879(明治11)年の関信三による『幼稚園創立法』に挙げられている「塗板(黒板の別称)」に施された「黒板画」が「壁面構成」の起源とされている。当時、保姆養成所では、黒板画の指導がなされ、有用な保育技術として用いられていた。しかし、次第に直接的な指導の補助としてではなく、装飾ができる壁面が導入されるまで、黒板が使われていた。

さらに、明治40年代には、幼稚園文化そのものがいわば輸入文化であったことにより、保育室の環境構成が、欧米の「室内装飾」の文化に傾倒していき、教育とかけ離れたものになっていくのである。

次に大きな変革をもたらしたのが、太平洋戦争後のGHQ(General Headquarters)による学制改革である。1947(昭和22)年に『教育基本法』が公布され、戦後の復興とともに幼稚園教育が進められた時、その指針となったのが『保育要領-幼児教育の手引き-』で、1948(昭和23)年3月に刊行された。これは教育者・倉橋惣三が民間情報教育局の担当者・ヘレン・ヘファナンとともに作成した。国に

よる最初の幼児教育の基準であったが、そこには室内の装飾に関する次のような記述がある。「絵画、装飾はすべて上品で、題材を子供向きであっても芸術的な美しいものでありたい。あくどい色彩、下品な装飾の室に生活しなれると下品な趣味になり、乱雑な室飾りの中に育った者は、不摂生な生活をするようになりがちである。」ここからは、この時代にはすでに幼児を取り巻く室内環境も子どもの育ちに影響を及ぼす教育的要素であると考えられていたのである。次の 1956（昭和 31）年に出された『幼稚園教育要領』では、第Ⅱ章「幼稚園教育の内容」の「6.絵画制作」の領域の望ましい経験として、「3.美しい絵や物を見る。」の中に「なるべく多く、美しい絵や製作物・花や景色などを見る。」「教師といっしょに、保育室や廊下などを花や絵で飾る。」という記述がある。ここにも現在の壁面構成につながる意識を見出すことができる。美しいものを見ることや、自らが部屋を飾るということなのである。現行の『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』においては、「表現」の領域の内容の中に「(1) 生活の中で様々な音、形、色、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりするなどして楽しむ。」[2] と示されている。また、『保育所保育指針』「環境」の領域の内容に、「(3) 生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする。」[3] と示され、さらに「①安全で活動しやすい環境での探索活動等を通して、見る、聞く、触れる、嗅ぐ、味わうなどの感覚の働きを豊かにする。」[4] とある。乳幼児期の保育（養護と教育）は環境を通して行う。そのため、保育者にとって環境を構成する技術はきわめて重要である。

そこで、幼稚園・保育所の現場では「壁面構成」が実際にどのように捉えられているかを概観するため、教員・保育者へアンケート調査を実施することにした。アンケート（調査票）の質問項目を設定するにあたって、塚本敏浩著「幼稚園・保育所における壁面構成の現状と今後の役割と方向性」[6] から引用（一部加筆）した。

2. 教員・保育者へのアンケート調査の結果から

「壁面構成」は造形教育的な関係性を持ちつつも、幼稚園・保育所の現場では、「環境」の一部として捉えられている。そこで、現場の教員・保育者を対象に質問紙による「壁面構成」に関するアンケート調査を実施することで、幼稚園や保育所における「壁面構成」の製作実態やその役割・意義を再考するきっかけとし、今後の「壁面構成」の在り方や方向性を展望する足がかりとした。【図 1-1】、【図 1-2】調査票参照）

(1) 調査方法と実施時期

高松市内私立保育所、こども園の本学科の保育実習協力園 14 園と近隣の私立幼稚園 2 園に常勤している保育者を対象に行った。調査の回答は任意とし、無記名で行った。

壁面構成に関するアンケート

1 幼稚園・保育所・認定こども園に「壁面構成」は必要だと思いますか。3つの内のいずれかに○をつけて下さい。
 (1) 必要である（一質問2へ） (2) 必要でない（一質問3へ） (3) どちらとも言えない

2 「壁面構成」は、なぜ必要だと思いますか。（自由記述）

3 「壁面構成」は、なぜ必要でないと思いますか。（自由記述）

4 お勤めの園の「壁面構成」ができる場所（壁面構成されている場所）全てに○をつけて下さい。
 (1) 園玄関 (2) 保育室 (3) 遊戯室 (4) トイレ (5) 廊下・階段
 (6) 保健室 (7) 子どもの靴箱 (8) 職員室 (9) その他 ()

5 あなたは「壁面構成」を担当（製作）されていますか。また、ご担当されている方は、その場所に○をつけて下さい。

担当（製作）している		担当（製作）していない	
(1) 園玄関	(2) 保育室	(3) 遊戯室	(4) トイレ
(6) 保健室	(7) 子どもの靴箱	(8) 職員室	(9) その他 ()

6 ご担当されている方にお聞きます。ご担当されている場所は、どのくらいの期間で構成を作り変えますか。何ヶ所かご担当されている方は、それぞれの場所と期間をご回答下さい。

回答例	場所 [保育室]	(1ヶ月)	ごとに作り変えている。
	場所 []	()	ごとに作り変えている。
	場所 []	()	ごとに作り変えている。
	場所 []	()	ごとに作り変えている。

7 「壁面構成」を作るにあたり、ご苦労されていることはどんなことですか。

(1) 製作する時間的余裕がない	(2) 技術不足（うまく作れない）	(3) 材料費の節約
(4) アイデアが浮かばない	(5) その他 ()	

【図 1-1】

その結果、高松市内私立保育所 11 園、幼稚園 2 園から回答（回収率 56.7%）、が得られた。アンケート（質問紙）調査は、2020 年 8 月下旬に実施した。

（2）調査項目

調査票は、（質問 1）幼稚園・保育所における「壁面構成」の必要性、（質問 2、3）「壁面構成」の必要・不必要のその理由（自由記述）、（質問 4）勤務園における「壁面構成」の設置場所、（質問 5、6）「壁面構成」の担当とその設置期間、（質問 7）「壁面構成」を作る上で、苦労しているところ、（質問 8）作る時に気をつけていること（質問 9）作る時に参考にするもの（質問 10）「壁面構成」についての意見や感想（自由記述）である。

（3）アンケート集計結果から「壁面構成」の現状と所見

以下、質問項目ごとに、回答結果から見た「壁面構成」の現状について所見を述べる。

① 【質問 1】幼稚園・保育所における「平面構成」の必要性

【図 2】に示されている通り、「必要である」と回答した保育者が 53.5%、「必要でない」と回答したのが 10.3%で、「どちらとも言えない」が 35.2%であった。「必要である」と回答したのが、半数を超えていたのは、壁面構成の役割が重視されていることが見て取れる。しかし、「必要である」と回答する保育者が 80%を超えてくるものと考えていた。同様に、全否定的な「必要でない」と回答した保育者が 10.3%と多かったのも想定外の結果であった。

表 7【質問 10】の自由記述（一部抜粋、原文ママ）によって、徐々にその理由が判明した。

【図 3】は、壁面構成を必要としている年代の結果で、回答者 20、30 才代で 69%を占める。「かわいい」や「楽しさ」を壁面構成で製作し、保育の一助に考えているのであろう。若い保育者が、園全体

8 「壁面構成」を作るにあたり、ご自身が気をつけていることは、どの様な点ですか。上位5つまで、○をつけて下さい。

(1) 色使い	(2) 形作り	(3) レイアウト	(4) 素材感
(5) 落ち着き	(6) オリジナリティ	(7) 芸術性	(8) 楽しさ
(9) 明るさ	(10) 季節感・自然らしさ	(11) 子どもらしさ	(12) かわいらしさ
(13) クラスカラー	(14) 保護者の反応	(15) 機能性（お知らせや掲示板としての）	
(16) 教師のメッセージ性	(17) 子どもの作品を使うこと	(18) こわれにくさ（耐久性）	
(19) 長期間使えること	(20) 簡単に作れること		
(21) その他（			

9 「壁面構成」を作るにあたり、参考にされるものは何ですか。○をつけて下さい。（複数回答可）

(1) 保育雑誌	(2) 壁面構成の教本	(3) インターネット
(4) その他（		

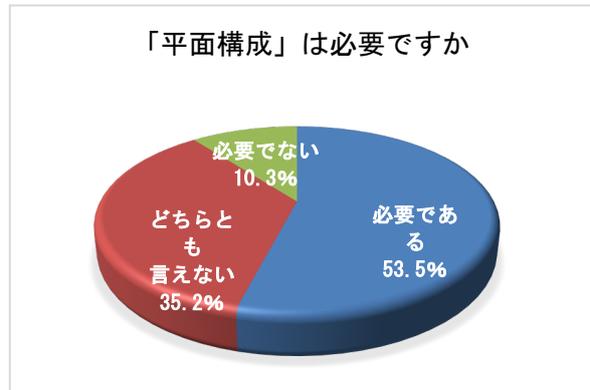
10 今回の「壁面構成」のアンケートに関して、ご意見やご感想があれば、どのようなことでも結構ですので、お聞かせいただくと大変ありがたいです。

■最後にお勤めの園、ご自身のことをお尋ねしたいと思います。該当するところに○をつけて下さい。

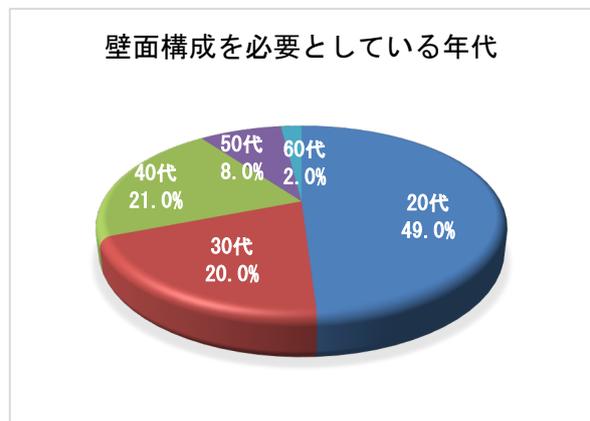
お勤め先	公立 ・ 私立	幼稚園 ・ 保育所 ・ 認定こども園 ・ その他（
性別	女 ・ 男	年代
		20代 ・ 30代 ・ 40代 ・ 50代 ・ 60代

大変お忙しい中、ご協力いただきまして、誠にありがとうございます。本アンケート結果をもとに、保育士志望の学生たちの指導に生かしたり、研究紀要等の執筆に活用したりしていきたいと思っております。

【図 1-2】



【図 2】



【図 3】

や保育室の雰囲気づくりに貢献していると言えよう。このグラフからも、各園の年齢別構成が推察できる。ただ、保育者の年齢を経るにしたがって、壁面構成の必要性が減る傾向にある。このことは、後の回答結果からも読み取れる。

【図4】は、壁面構成を実際に製作している保育者20才代の、壁面構成が「必要である」または「不必要である」の割合である。「必要である」が57.0%であることは得心するが、「分からない」が37.0%

と意外と多い。疑問を抱きながら、製作していることが想像できる。毎月の壁面を変えることに、かなり苦労していると思われる。若い保育者が、構成する内容を子どもたちの興味・関心、遊びの中で探すことは、至難かもしれない。

また、多くの保育者が「壁面構成」の定義・解釈が曖昧なまま、回答していると考えられるのである。「壁面構成」と言うの一部の保育雑誌に見られる派手で可愛らしいだけのキャラクターをイメージしているものと考えていることが、表6や表7の自由記述で読み取れる。

そうした壁面の装飾に価値を認めない保育者、また管理者が昨今増えてきたと考えている。アンケートを依頼すると、管理者から丁重にアンケートを辞退する園が3園あった。また、回答して戴いた園の中には、回答した保育者の多くが「壁面構成は必要ない」と回答する園もあった。園の方針として、いわゆる「装飾」することをしないのである。

著者が考える「壁面構成」の定義には、子どもたちの作品を使った構成や、季節の物を使ったガーランド、天井にはモビール、天幕、オブジェを飾ることも含まれるのである。子どもの作品を掲示して構成することも「壁面構成を必要とする」「必要としない」「どちらとも言えない」に含まれ回答されている。壁面構成をしていないという園でも、子どもたちの作品を飾ったり、トイレや連絡板には小さな装飾をしたり、行事の際の看板に装飾したりしているものとする。保育者からの聞き取りによると公立の園では、さかんに研修機会があるが、私立の場合は機会が少ないため、様々な情報交換が出来ないのも定義が曖昧な一因と考える。

② 【質問2、3】「平面構成」の必要・不必要のその理由（自由記述）

表1が「必要である」と回答し、その理由についての自由記述（一部抜粋、原文ママ）である。また、表6が「必要でない」と回答した場合の「不必要」と考える理由についての自由記述（一部抜粋、原文ママ）である。表1の「壁面構成」が「必要である」と回答した記述内容を読み解くと、壁面を構成することに対して前向きであることが分かる。壁面構成に保育士の願いや思いが込められている。また、記述した保育者から担当する子どもたちの姿が想像できるのである。しかし、記述のほとんどは造形的な要素に着目しておらず、「装飾」のために製作されていると考える。「必要である」と回答した理由の多くの記述が「季節感」・「自然」を感じ取ってもらいたいことが多数を占める。「季節」を感じることで育てる学びの本質は、実際の自然物や気候、園や子どもたちの生活環境等「実物の自然体験」を通して獲得させるものである。園庭で夏野菜を採ったり、芋掘りをしたりしながら自然や季節を獲得している



【図4】

【表1】 [質問2] 壁面構成の必要性とその理由（主なものを一部抜粋）

- ・何もないのは殺風景に見えてしまう。子どもたちが明るい気持ちで楽しく過ごせるためには必要だと思う。
- ・季節をイメージでとらえる為。作品の掲示について親子で会話が広がるから子どもの成長を感じられるから。
- ・子どもの作品を飾ることにより、日頃の製作において成長を見る人に伝えることができると思う。
- ・季節を感じたり、壁面を見て言葉でのやりとり等ができるから。
- ・子どもたちが季節を感じたり、手先を使ういろいろな技法を学んでいくため。
- ・みんながひとつのものを作り上げる楽しさなどが味わえる。
- ・季節感が出る。やわらかい雰囲気が出てなごむ。壁面の中に自分の作品が入ることにより自信につながる。保護者に見てもらい、ほめてもらったり、会話が広がる。
- ・壁面があることによって子ども達が言語の発達などにつながる。
- ・保育室が明るくなったり、トイレの誘導に役立っている。
- ・子どもの作品を親に観てもらい成長も見てもらう。
- ・子ども自身が作成した作品を飾ることによって、親と子の会話に繋がりが子どもたちの自信や達成感にもなるから。
- ・子どもの興味・関心を高めるために必要だと思う。
- ・製作遊びを楽しむだけでなく、自分の作品を見たり、友だちの作品の違いを発見することも面白さの一つだと思うので、壁面はあったほうが良いと思います。
- ・絵や製作分を壁面で生かすことは自分の作品を見て喜びを感じたり、友達作品に興味をもち認め合ったりできる。
- ・園全体が壁面だらけというのは落ちつかないと思うが、季節感のある自然物や壁面構成は良いと思う。
- ・子ども達に知らせたいものを壁面で知らせることができるため。
- ・季節感を知らせる（感じられる）。登園が楽しみになる。保育室が明るくなる。
- ・季節に合わせた壁面を作ることで、季節ごとの行事や動植物、遊びなどに気付くきっかけとなり、また想像力を豊かにすることにもつながる。
- ・壁面を見て季節や動物、生き物の存在を知るきっかけに繋がると考えるから。
- ・子どもたちにとって季節感を感じられる空間づくりや、保育室が明るくなるなど子どもたちの刺激になるからです。
- ・壁面のイラストや絵を見たり自分で作っていく中で様々なことを学ぶことが出来る。(名称・季節・行事・色・形等)
- ・子どもの物的環境の中で様々な事を学んでいくと思う。そこからの発見や気づきが生まれ、興味関心につながるものだと考えている。季節感を知るうえでは大切である。
- ・子どもの興味のある壁面や四季にまつわるものを飾ることにより、部屋の雰囲気が明るくなり子どもの興味関心発語にもつながる。自分の作った制作を貼ることにより達成感を感じながら四季を感じられる。
- ・壁面の環境を見て季節を感じたり、月齢の低い子にとっては、名前と物が一致する為の保育教材になる為。
- ・季節の花や小動物などの壁面をする事で、子ども達が聞いて知る。季節の歌だけで季節を感じるのではなく、視覚的にもわかりやすい。なにもないよりは、あった方が明るい雰囲気がでる。
- ・子ども達が園生活をスムーズに送れるように表示だったり生活の中での必要な動き等、環境の一つとして絵等でわかりやすくしてあげることは大切だと思います。年齢によっては、絵とひらがなで組み合わせたりいろいろなパターンがあります。
- ・季節を感じられる。子どもが指さしをしたり、室内の環境が変わると子どもも変化を感じて喜んだりする。
- ・壁面を見て季節を感じることができたり、安心感を感じられると思うので必要だと思います。
- ・保育をする中で、子どもの感性を育てる事等に、活用することができるので。
- ・楽しい雰囲気作りの為には、必要だと思います。また、それぞれの季節を感じたり小さい子ども達の言葉の発達を促す手段としても大切だと思います。(指さし etc)
- ・壁面を通して季節を感じられたり、あたたかい雰囲気作りができると思うから。又、小さい子どもは物と名前の一致を知らせる意味でも必要だと思う。(過度な壁面はいらぬとおもいますが…)

- ・子どもたちが保育室を見たときに壁面があるとそれだけで明るいイメージがもてると思うから。
- ・温かい雰囲気を感じたり、季節を感じたりできる視覚的効果があるため。
- ・子どもたちの作品を飾ることで親子の会話も弾むため。
- ・四季の移り変わりや年間の行事など。子ども達を感じとり様々な活動に楽しみをもてるようにするために必要だと思う。
- ・子どもが描いた絵などを子どもの目線の高さに飾ってあげることで、自信にもつながるから。作ったものを飾ることで、他児も見ても楽しんだり、刺激し合えるから。
- ・親子で描いた造形遊びの作品や自然物を生かしながら季節感を感じ、あたたかい雰囲気の中で安心して過ごせると思うから。
- ・自然物を飾り、それをみて友だちや大人との会話から季節を感じとれたり、想像をふくらませたりできるので。
- ・保育室には、そんなになくてもいいと思いますが保育室以外には少しあった方が季節感を感じれたり雰囲気がよくなると思います。
- ・季節感を感じられる。自分が作ったものを見る満足感、達成感、楽しい雰囲気を感じられる。
- ・子どもたちの感性にはたらきかけるものとして必要（季節感、色彩感など）。
- ・季節感等をできるだけ本物に近いものを使って感じる構成にしたり、子どものその日に満足するまで描いた絵等を見える形で他の子どもにも知らせるため。
- ・楽しい雰囲気作りや子どもたちの興味（あれは何だろう）を環境として作るため。四季の変化を感じるため。（旬の食べ物等も）
- ・子どもの表現した造形作品を飾ったり、構成物である子どもの作品そのものをストーリーのある集合体として捉え掲示することで、子どもの表現意欲が増す。また、屋外で子どもが見つけた物や活動（散歩、虫探し等）の写真を掲示することで、子ども自身がその時のことを語ったり、伝えたりするという育ちにつながると考えるため。
- ・季節を感じたり、子どもたちの作品や取組みを保護者の方に見てもらったりできる機会になると思う。
- ・季節感を何となくでも感じるきっかけになると思うので必要である。子どもの作品を飾ることで子どもの成長を感じることもできると思うため。
- ・子どもの人間性を豊かにするものだと思うから。
- ・四季の移り変わりがわかる壁面で、子どもの情操教育にもつながる。季節感を感じたり、明るい壁面や生き物（花、木、鳥など）を見て、心を和ませることができる。部屋や階段、廊下などの壁面は、保護者とともに環境の一部であり子どもの育ちには必要だと思います。
- ・子どもたちが製作した物を掲示することで、完成したことへの達成感が味わえると共に先生、お友だち、お家の人に見てもらえたという充実感が持てると思います。
- ・壁面を作るさい、色々な方法を知るきっかけにもなり、飾られた喜びを感じられるため。
- ・目で見てかわいく楽しい気分になるし、自分が作った製作を見て、子ども達も喜んでいる為。
- ・室内にいても季節を感じることができる。室内がはなやかに、色が目に入ることで色彩感覚が豊かになる。
- ・子どもたちが作った物を飾ることで、自分たちで作った喜びや満足感、達成感を味わうことができる。
- ・子どもと共に作る過程を楽しんだり、見て思いを言いあったりするのもおもしろい。季節感がありわかりやすい。保護者の目にも楽しい、嬉しい。
- ・季節感を感じられる。行事や文化に親しみが持てる。色彩感覚や想像力が育まれる。技法や様々な素材に触れ、物の特性などを知り、五感が刺激される。
- ・「自分でできた」「自分で作った」を実感できる。のりやハサミの使い方等、製作を通して学ぶことがたくさんある。
- ・子ども達が様々な技法を知れる。作品から成長を感じられる。部屋が明るい雰囲気になると思うから。
- ・保育の部屋を明るくさせる。その作品を保育者と子どもたちと一緒に見て話がうまれる。
- ・子どもの気持ちが何もないより楽しい明るい雰囲気になる。壁面を通して季節感を感じられる。行事への期待感につながる。
- ・保育室を飾るアイテムとして大切であり、子どもたちもよく見ている。
- ・季節感やその時期のクラスの雰囲気などを表現できるので、子どもたちの情操や感性が豊かになる環境構成だと思います。

(原文ママ)

のである。しかし、四季の移り変わりが分かりにくい市街地に住む子どもたちにとっては、容易に自然に触れる機会が少ないのは否めない。

表1の下線_____の部分には、造形表現的な意見や感想等が記述されている。「子どもの表現意欲が増す」「色々な方法を知る」「色彩感覚が豊かになる」「想像力が育まれる」、また「技法や様々な素材を知ることができる」「ノリやハサミの使い方を学ぶ」などである。下線_____では、「子どもたちの作品を掲示することによって、子どもどうしや子どもと保育士や保護者との会話が広がり、言語の発達や自信や達成感・充実感を得られる」また「友だちの作品との違いにも興味・関心を持つことができる」とある。そして、作品が入れ替わると子どもたちも新しい作品に「興味を持って、新しい気づきや友達との刺激になる」と記載されている。さらに壁面構成を利用して、トイレトレーニングの一助にしたり、発達状況に応じて平仮名や数字を組み合わせた構成もしている。保育者が、日頃から「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を意識し、構成しているのである。

表2は、問2「壁面構成の必要性」についての自由記述回答全文を、テキストマイニングしたスコアの結果である。数多くの回答で、保育施設内の雰囲気づくりに活用されている「季節感」「明るい」「楽しい」要素を入れた構成に重点が置かれていることが分かる。また、動詞では「感じる」「思う」「つながる」「知らせる」など、保育者から子どもたちへの願いや思いが込められていることも注目できる。

表3では、出現パターンの似通った語（共起の程度が強い語）を線で結んだネットワークがいくつかの集団（ブロック）で出現している。中央部分の集団では、「季節」「季節感」「感じる」「思う」の用語

表2 「壁面構成の必要性」についての自由記述における頻出語

■ 名詞	スコア	出現頻度	■ 動詞	スコア	出現頻度	■ 形容詞	スコア	出現頻度
季節	71.82	57	感じる	26.69	74	明るい	22.90	28
子ども	50.16	42	思う	1.25	47	楽しい	0.67	17
壁面	219.01	33	できる	1.37	33	あたたかい	2.24	3
雰囲気	18.52	33	作る	0.95	18	わかりやすい	0.62	3
季節感	146.98	30	飾る	15.54	17	良い	0.01	3
子どもたち	80.06	28	つながる	11.09	11	いい	0.01	3
作品	9.21	28	知らせる	12.49	7	小さい	0.08	2
保育	54.05	20	楽しむ	0.29	7	嬉しい	0.01	2
環境	4.42	14	見る	0.04	7	やわらかい	0.40	1
必要	1.72	14	味わえる	6.68	6	可愛らしい	0.12	1
物	2.08	13	もらう	0.12	6	温かい	0.10	1
部屋	1.03	11	知る	0.09	6	おもしろい	0.03	1
子ども達	24.59	9	伝える	0.55	5	近い	0.01	1
行事	12.18	9	学ぶ	0.82	4	うい	0.01	1
興味	1.19	9	持つ	0.05	4	面白い	0.00	1

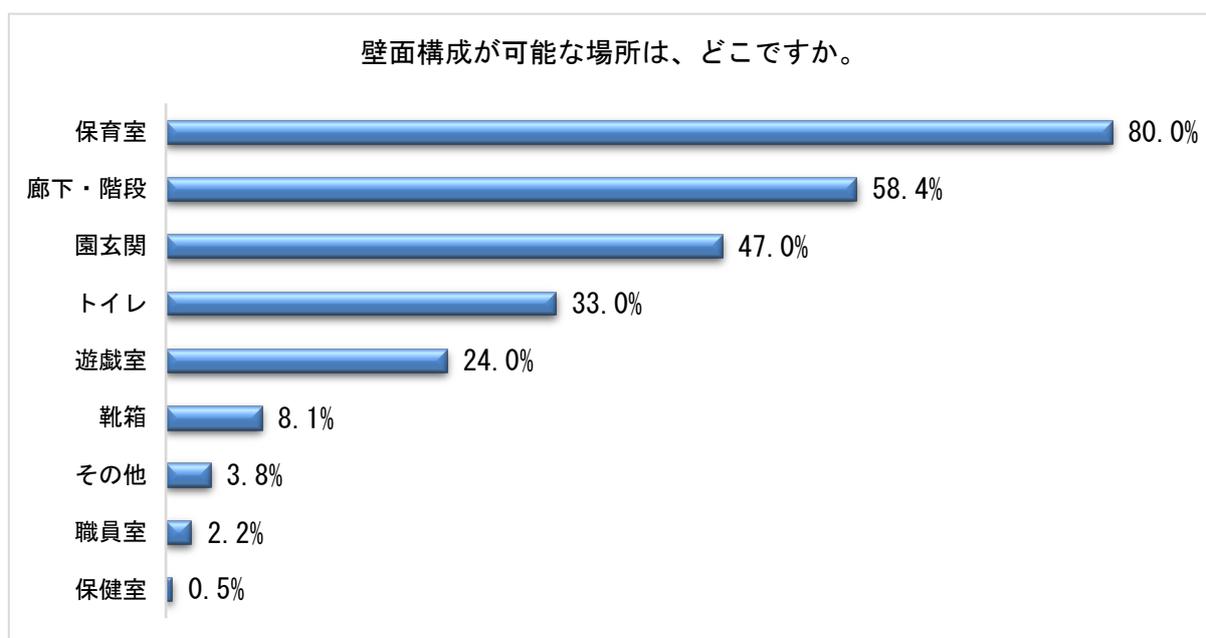
【表 6】 [質問 3] 壁面構成の不必要性とその理由（主なものを一部抜粋）

- ・季節を感じるためなら季節の花や生き物を用意できる。また保育者が作った物ではなくて、子どもが作った物を飾る方が保育の姿、成長、保育者が伝えたいことなどが保護者に伝わりやすいと思う。
- ・保育者がつくった壁面よりも、日々の保育の中で子どもたちがつくったものをかざりたいから。
- ・壁面も環境構成のうえで大切だと思うが、壁面よりも棚の上、おもちゃの置き方などを工夫する方が大切だと思う。
- ・保育園は子どもたちの「生活の場」です。家庭的な場所で落ち着いて過ごしてほしいと思っています。お家に壁面構成のしてある家はないと思います。
- ・大人の自己満足なだけなので……
- ・保育士の時間と労力のむだのような気がするから。
- ・わざわざ大人の都合で飾りたてなくていいと思う。清潔感があり、子どもたちの美的感性を少し置けばよい。また、子どもの作ったもの描いたものは「今回はこの子」と決めて飾るようにし、洗濯物のように全員分を飾らなくていいと思う。
- ・壁面構成はしていませんが、絵を描くことが好きであり、続けるために普段あまり絵を描かない子が描いたり、色合いが上手だったり、なぐり書きだった子が人を描けるようになったりという子の絵をじっくり鑑賞ができる子どもたちの視線のところに飾るようにしています。
- ・子どもには分かりにくいもの、実際に触れないなどあるから。
- ・作るのに時間がかかり大変である。それよりも子どもの描いた絵や作ったものを飾る方がうれしいのではないかと思う。
- ・保育士の負担になる。画用紙がもったいない。飾るなら子どもの描いた絵や動物等の写真など本物を貼った方がいいと思う。家庭にはないものだから、飾ると家庭の雰囲気から遠ざかってしまう。
- ・保育者が作ったものをかざるのでなく、子どもが描いた絵をかざったり、実際の写真をかざる事で子どもたちの豊かな心が育つと思います。
- ・作られたものではなく本物を目にできるようにしているの。
- ・壁面を作るのは保育者にとって負担になる。子どもたちにイラストではなく本物を見て欲しいから。
- ・季節や生き物（植物や動物）を知っていけるようにするには、本物の生き物の写真を見せる方が良いと思うから。
- ・子どもの絵や作品を飾ったり、動物や乗り物の写真を飾るなど本物を飾ることを大切にしているから。また、美的環境のため。
- ・子どもがつくったものでないなら必要ないと思います。
- ・季節感、子どもたちの製作物をかざることでも演出できると思うので。
- ・凝った物を作りがちになると、負担（仕事の量）が増えるから工夫が必要と思う。
- ・ここでいう壁面構成がどういうものを指すのか難しいが、画用紙で作ったキャラクターなどの物であれば必要性を感じない。保育所は子どもが1日の大半を過ごす場所で家庭的であることが大切だと思う。家庭にそういったものはないので保育所も同様である。
- ・毎月必ずとなってくると、保育士への負担が大きすぎると思うから。
- ・壁面作りに時間や材料等をかけすぎると子どもたちとの時間を有意義にした方がよい。壁面によっては家庭的な雰囲気が損なわれてしまう可能性がある。
- ・あまりにも過剰すぎるとそれが目に入ることで落ちつくことが難しい子どもが居る。本物でないもので知らせることをあたりまえと思うことに抵抗がある。
- ・季節や文化を感じるという部分を大切にするのであれば、壁面構成という形式でなく、季節の植物を飾る等でも良いように感じます。
- ・準備されている玩具が子どもたちの興味を持つものであり、たくさんあるのならわざわざ壁面構成する必要はないと思うから。
- ・保育室は、落ち着けるようにごちゃごちゃ貼らない。（廊下や毎日使う保育室以外の場所に行う。）
- ・作るにあたってかなり時間を使うが、完成しているものが子どもたちの会話のたねになることがある。だが、壁面に絵本紹介（絵本を飾る）する園があることを聞いて、それもいいなと感じた。

（原文ママ）

④ 【質問4】園内における「壁面構成」が可能な場所

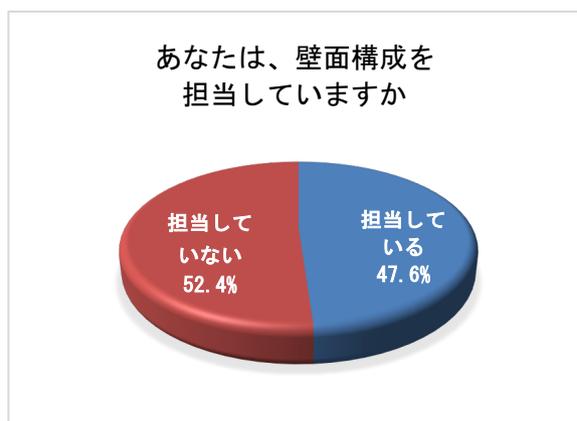
【図5】は、壁面構成が可能な場所についての回答結果である。この質問は、回答する保育者によって「できる」または「できない」の回答が異なってくると考える。回答の中には、既に壁面構成として使っている壁面と、他の場所にも構成が可能であるとする思いにズレがあると推察できる。園の施設環境に違いがあるものの、ほぼこの園でも保育室の子どもたちのロッカーの上は広い空間となっている。そこに子どもたちの作品や、可愛らしい構成がされているのが大半であろう。しかし、保育室は100%に近い回答を予想したが、80%にとどまった。この回答結果にも、先述の「壁面構成」に対する定義の曖昧が反映している。子どもたちの作品を掲示しても、構成とは見做していないため少ないのである。そして、殺風景になりがちな廊下や階段は58.4%、保護者や来客が行き来する園玄関も47.0%の結果で、環境構成の一つとして配慮されているものと思われる。また靴箱周辺にも配慮が見られる。「その他」では、園入り口にある掲示板やホールなども記述されていた。



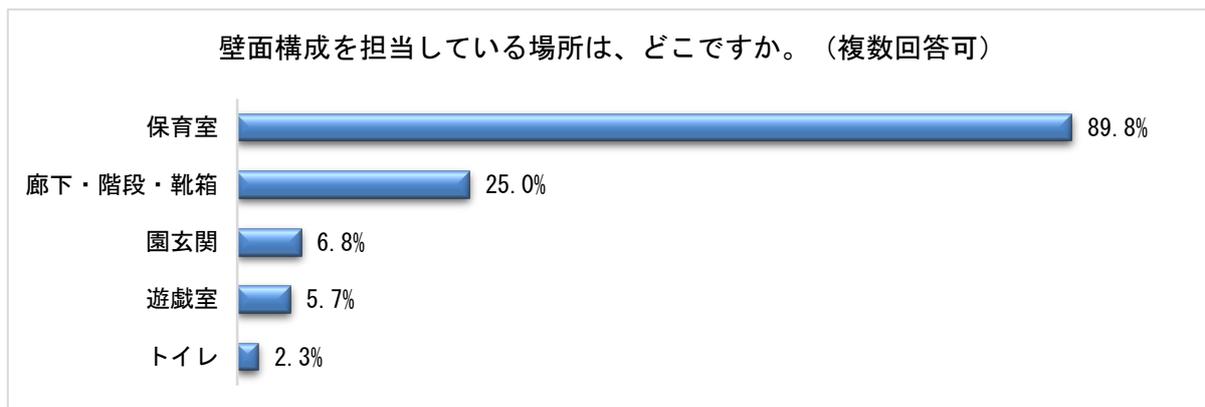
【図5】

⑤ 【質問5】壁面構成を担当していますか

【図6】は壁面構成を、実際に担当しているかどうかを問うた割合である。回答者の47.6%が担当していて、年代的には20才代が最も多い。受け持ちの保育室や、係分掌で廊下・階段、園玄関、子どもの靴箱等を月1回、もしくは数ヶ月、季節毎など他の保育者とローテーションを組みながら担当している。また園によっては、通年担当するなど形態は様々である。しかし、この結果も子どもの作品を飾ることも含まれるか否かの保育者自身の壁面構成に対する定義が違っていたり、曖昧だったりして担当の受け取り方で異なる。



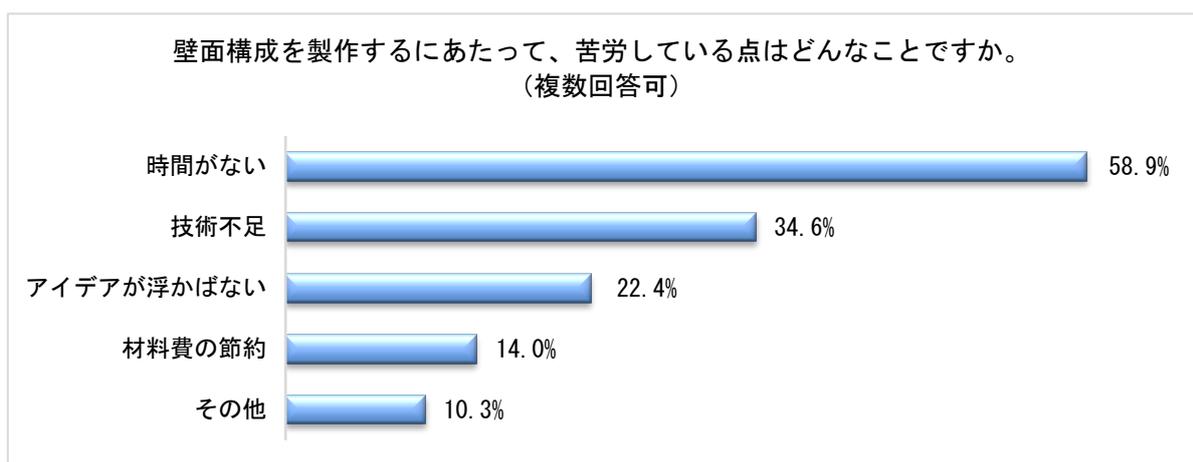
【図6】



【図7】

⑥ 【質問6】 壁面構成を担当している場所

【図7】は、【図6】で壁面構成を担当していると回答した86名が、施設のどこの場所を担当しているかの結果である。当然の如く、保育者自身が担当する保育室が89.8%と多い。保育者一人が保育室1ヶ所を担当するケースが多い。しかし、保育室と玄関、または廊下・階段など2ヶ所担当している保育士が22名で、内20才代15名、30才代2名、40才代5名である。そして、3ヶ所担当する保育士が20才代に3名いた。次に多いのが、廊下や階段、靴箱の25.0%である。殺風景な広い空間を構成しようとする配慮が見られる。続いて園玄関は6.8%で様々な人が行き交う、まさに園の顔と言うべき重要な空間でもある。注目すべきは、遊戯室で5.7%あり、子どもたちの遊びを促すような構成をしているのであろう。また、水回りやトイレを明るく、抵抗感を少なくする空間に作り上げようとしたり、トイレトレーニングのための注意書にイラストを添えたりするなど、何らかの工夫をしながら構成していると考えられる。



【図8】

⑦ 【質問6】 壁面構成を製作するにあたって苦勞する点

【図8】は、製作する上で、苦勞している点を問うた結果である。【質問5】で「担当（製作）している」と回答した86名の内58.9%が、製作する時間的余裕がないとしている。保育現場では、時間外勤務や持ち帰って週休日に製作していると聞く。「壁面構成」に費やす業務そのものが「保育者の負担」との記述が自由記述欄にも多く寄せられた。保育現場にとっては、切実で喫緊の課題である。そこで、著者は少しでも保育者の負担を軽減するためには、次のことを提案する。

まず、保育者自身が「壁面構成」に対する認識を改め、環境を構成する一部として捉え、常時壁面い

っぱいに構成する必要はないと考えるべきである。著者は、壁に何も飾られていない期間があっても良いと考える。むしろ、何もない空間が子どもにとって何かを想像したり、考えたりするきっかけにつながると考える。壁面よりも棚に展示する機会を増やす立体物を製作することによって、壁面を使う機会を減らしたり、平面でも小さい作品にしたりすると壁一杯に常時占有することはない。

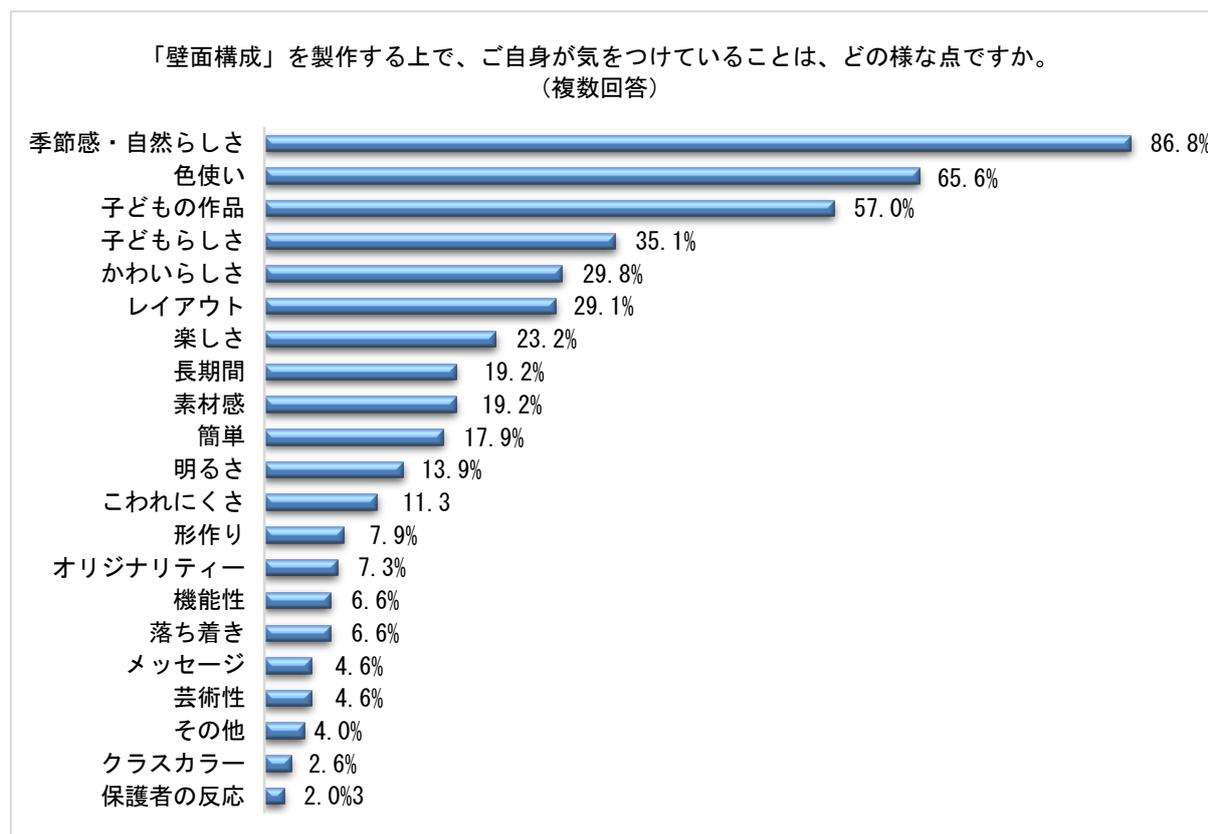
また、製作にあたり保育者一人が抱え込まずに、事前にどのような壁面構成をするのかを学年団で協議し、各人が苦勞している点をできるだけ共有して、学年団や園全体で協力して取り組むことが必要である。それによって保育者一人ひとりの負担感が軽減できる。但し、このことにあたっては施設管理者が改善していこうとする意識を持つことと、保育者のサポートが必要である。

次に、これまで製作したパーツをラミネートし、使い回していく方法である。アンケート [質問 10] の自由記述欄にもあるように、既に行っている園や保育士も多く見られる。ただ、保管・保存に留意すべきで、製作する材料の色画用紙も退色したり、変色したりする。できるだけ直射日光を避ける必要があるが、保育室内の環境下では困難ではある。そこで最近、UV カットのラミネートも開発され市販されているので、それを使用するのも良いであろう。また、保管・保存にあたっては厚手の紙等に挟み、暗部に置き、さらに湿気にも注意することで、長い期間使い回していくことが可能になる。

以上を筆者から提案する。今後保育施設等でも検討して頂きたい。

⑧ [質問 8]「壁面構成」を製作する上で、ご自身が気をつけていることは、どの様な点ですか。

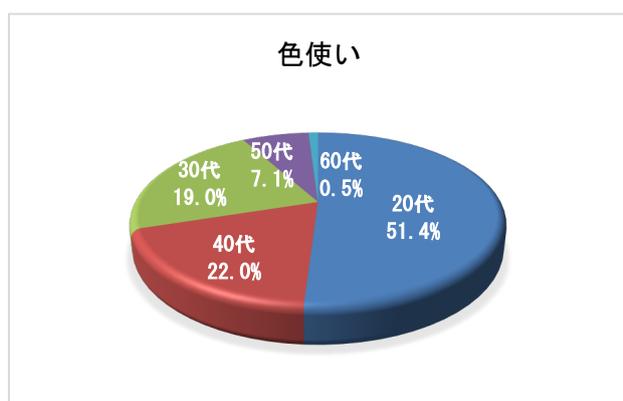
この項目の回答者数は 151 名 (アンケート全回答者数 185 名) で、[質問 2] [質問 3] の結果同様に、保育者が製作する場合に重視していることは、「季節感・自然らしさ」が最も多く、回答者の 86.8% が回答している。



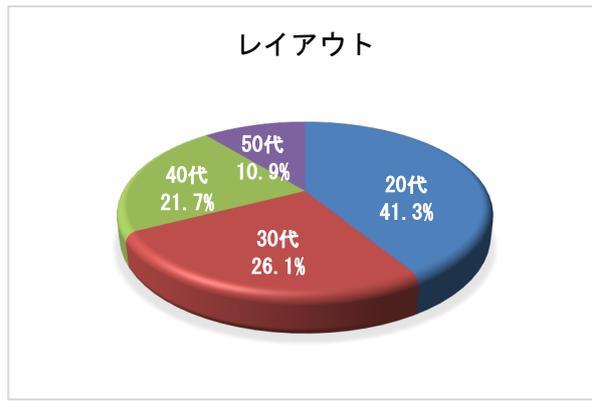
【図 9】

また、「子どもの作品」を使つての壁面構成では、57.0%が構成していると回答しているが、実際には、もっと多数の保育現場で行われていると推察する。他には「子どもらしさ」35.1%や「かわいらしさ」29.8%と高い。特に20才代の若い世代は、意識して製作しているようだ。次に注目すべきは「色使い」で、全体の65.6%を占めている。まず子どもたちの視覚に入る色彩は、構成をする上で最も重要な要素の一つである。しかし、「形作り」の割合が7.9%と低いのは製作物にオリジナリティーを求めないからであろう。オリジナリティーを求めず、既成の保育雑誌等から拡大コピーして切り貼りすれば、難なく製作することができる。多忙な保育者にとっては、有り難いものかもしれない。特筆すべきは「機能性」の項目で、他の世代より30代が多く回答している。単に「季節感・自然らしさ」「楽しさ」「かわいらしさ」だけでなく、メッセージ性や掲示板としての役割を盛り込もうとしている。

「その他」の項目を選び、記述された中に「子どもたちが今興味を持っているもの」、「子どもが触つ



【図 10】



【図 11】

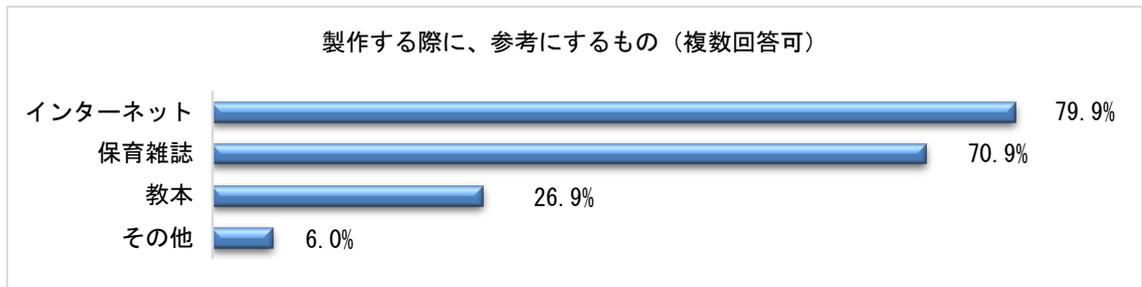
ても大丈夫な様にする」「子どもの作品を生かせる様な飾り方」「言葉遊び等にもつなげられる物を作る」などがあった。保育者が常に子どもたちの興味・関心に配慮し、活発な活動になるように働きかけていることが分かった。他にも「構成する際は、全体のバランスに注意する」とあり、造形表現の上で最も大切なことである。部分的に質が高くても、全体のバランスが悪いと視覚的効果が薄れるのである。

【図 10】は、造形表現の要素の一つである「色使い」に気を付けている世代別の割合である。20才代と30才代を合わせると70.0%になり、年代を経るごとに減少している。製作にオリジナリティーを求める保育者は、7.9%と極めて少数であるにも関わらず色使いに気をつけるのは、保育雑誌など参考にしたものの色が自身のイメージと異なるため、色を変える場合と、もしくは背景になる壁の色と合わないために変える場合等が考えられる。色彩ほど製作者の趣味・嗜好が反映するものはない。

尚、色彩については、筆者が保育現場を取材する中で感じた製作上留意すべき点を後述する。

【図 11】は、「レイアウト」についての世代別の割合である。全世代で軽重なく配慮されていることが読み取れる。「レイアウト」も「色使い」同様に、保育施設ごとに壁面や周囲の環境から異なるため、製作する上で重視されるのである。周囲の雰囲気や設定している壁面の大きさに、適切なレイアウトを試みようとするからである。こうしたことは造形表現の上で最も基本的なことといえる。

⑨ 【質問 9】「壁面構成」を製作する際に、参考にするものは何ですか。



【図 12】

【図 12】が、この項目の回答結果である。回答者数は 134 名で、「インターネット」を活用するのが最も多く 79.9%、次いで「保育雑誌」が 70.9%となっている。「その他」の回答に、美術館や雑貨屋、先輩や同僚の作品、絵本や図鑑、SNS の情報などが上がった。

何も参考にしないでオリジナルなキャラクターを製作することは、容易ではない。著者は様々なものを参考にするのは良いと考えるが、その場にふさわしい内容のものであるか、周囲の環境や壁面の色に対し調和しているかが重要である。

また、雑誌等からそのまま模倣するのではなく、自分なりに考えた色彩や大きさを変えるなどし、レイアウトを配慮することが望まれる。

⑩ 【質問 10】「壁面構成」に関する意見（自由記述）

表 7 は「壁面構成」に関する意見や感想の自由記述（一部抜粋、原文ママ）である。壁面構成に対して、保育者の普段からの取り組みや考え方、工夫されている点、苦労されていることが手にとるように分かった。「壁面構成」を通して、子どもたちの豊かな成長を促そうとしているのが分かる。このアンケート全体の回答者 185 名の内 51 名から回答を得た。半数以上の 29 名が【質問 1】で「壁面構成」は「必要」として、実際、保育室、廊下・階段等を製作している。【質問 1】で「壁面構成」を「不必要」としている保育者から 6 名、「どちらとも言えない」と回答した 9 名の自由記述を得た。記述した内容を読み解くと前述した通り、「壁面構成」の定義・解釈が園や保育者間で統一されていないため、「不必要」とする理由の中には、派手なキャラクターが保育室内や保育施設のいたる所に飾られていることが意識されているのである。中には、子どもたちが製作した作品を飾ることは、「壁面構成」に含まれていないことも判明した。また、【質問 1】で「壁面構成」は「不必要」「どちらとも言えない」を選択回答した保育者の記述された内容を推察すると、保育室内全体を大きなキャラクターを派手に飾ることは不必要だけど、ワンポイント的に「かわいく飾るのは良い」としているのである。要するに、どこの保育施設も子どもの作品を保育室に飾り、玄関、靴入れ、トイレ、廊下などにも、少なからず何らかの構成はしているのである。また、保育参観、誕生会、入園・卒園式などの行事の時はどうであろうか。その飾り方が、保育施設や保育者によって異なるのである。記述されている内容には、造形表現に関する内容も見られる。下線 _____ で「壁面がされていることはとても素敵だけれど、あまりに多すぎたり、種類が多すぎるとごちゃごちゃしてしまう気がしてしまい、そこに子どもの目が向く事で伝えたいことが伝わらなかつたりと思うので、飾り方やデザインは考えている。（原文ママ）」とある。また、「かざり過ぎて、落ち着かない（目が散ってしまう）」と記述されている。著者も同様で、壁の大きさに対しての装飾の大きさや色彩、レイアウトは非常に大切な要素なのである。下線 _____ では、「こうしたい」と

【表7】 「壁面構成」のアンケートに関する意見や感想（主なものを一部抜粋）

- ・壁面構成は保育の中での環境構成としてとても大切なことだと思う。保育の計画を立てる上で、必ず壁面についても考えることが当たり前になっているので改めてアンケートに答えながら自分の今までの壁面構成を思い返したり、これからどうしたいか考えたりすることができた。(40才代)
- ・壁面構成は、子ども達の環境を整える上でとても大切にしたい事だと思います。保育者が歌（季節の）を歌うだけでは伝えられない季節感を表現できたり、動物などを取り入れる事で指さして「ワンワン」と言ったりしながら、保育者と言葉のコミュニケーションが図れたり、発語を促したり出来ると思います。実際、現場では時間に追われてしまかなか思うように出来ないこともありますが、かわいい子ども達の為に日々努力しています。(40才代)
- ・壁面が必要か必要でないかは分かりませんが、子ども達が季節を感じて喜んでくれるので、作ってよかったと思うことがあります。特に今年は、コロナ禍で行事がなくなりキャンプやプール（未満児）も中止になりました。夏の環境に季節を感じて子どもたちが喜んでくれたのがとても印象に残っています。(40才代)
- ・壁面は必要だとは思いますが、あれもこれもいろいろな場所にしまったり、何色も濃い色を使ってしまうたりすると逆に子どもたちは目移りしてしまったり疲れるのではないかと思っています。なので子どもがよく見る場所はシンプルにしたり色を使いすぎないように気をつけたりしているので、このアンケートをきっかけに自園でも壁面のあり方を皆で話し会えたらいいなと思いました。(40才代)
- ・よくいう「壁面構成」はやり過ぎだと思う。大人の自己満足であり、子どもだましのように思える。季節感を出したいなら本物を使えばいい。大人もその「壁面構成」に入れ込んでいる力を目の前にいる子どもの為に使えばよりより保育ができるのではないだろうか。(40才代)
- ・壁面の装飾については、特に保育室では子どもの作品を大切に飾ったり展示して保護者の方に観ていただいています。装飾は保育雑誌やネットにあるようなかわいらしいものやキャラクターでないといけないということでもないですし、子どもの発達だったり、(季節を考えることももちろんあり)、どういふものを今回つくるのが意味があるというか何をねらいにつくるかだったりが大切で、そういう子どもの作品を飾る方がふさわしいと思います。壁面や保室に飾られる子どもの製作物も毎月（年間）の保育内容の大切な一つです。(40才代)
- ・当園の壁面構成では、十数年前まで画用紙等を使用した保育者による作品の掲示を月1回担当を決めて行なっていた。しかし、子どもの育ちにとって、必要かどうかを改めて考え直し、現在は問2に記入したような形で壁面構成を行なっている。子どもが生活をする場であり、子どもが主体的に関わることのできる環境として、壁面構成を含む環境について、問題提起することは非常に重要であると感じる。(40才代)
- ・子どもの作品を目立たせたい時には壁面をあまりせず、季節感を感じられる作品（スイカ、トンボ等）であれば、その背景になるような壁面を作ったりするようにしています。壁面があるから子どもが落ち着かないというクラスでは控えめに、逆に壁面に興味を示す子どもが多いクラスには話題提供になったり、季節の歌に繋げやすいものになったりするので積極的に取り入れようと考えています。(30才代)
- ・壁面構成の定義、ここでのそれがどういったものを言っているのかわかりにくく答え難い。うさぎやくまといった見栄えばかりの壁面装飾は必要ないが、季節を感じる自然物やさり気ない絵画などは子どもの環境認識にとっても重要であると感じている。壁面をつくる時間あるなら子どもにしっかり手をかける方が有意義ではないかなと思う。子どもと一緒に作るのはとても良いと思います。(30才代)
- ・以前務めていた保育所では壁面制作があり、毎月製作するため、とても大変だった。今の保育所ではしていないため製作におわれることなく、ゆっくりと保育が出来る。(30才代)
- ・子どもたちが作った季節の製作物を保育室にかざっています。その時期の年齢らしさや、素材感を損なったり、かざりすぎて落ちつかない（目が散ってしまう）環境にならない様気をつけています。(30才代)
- ・子どもたちの“こうしたい”という意欲につながるころでは壁面があってもいいのではないかと思います。また、季節の移りかわりを感じられるようにするなど意図があつて構成することはいいと思いました。子どもたちの姿によって壁面の必要性も変わっ

てくるのだろうかと考えました。(30才代)

- ・子どもの美的感性を育てるため、なるべく本物、画用紙で作ったくまやうさぎではなく写真を使っていくことを大切にしている。又、2歳児クラスでは子どもが描いた絵を額に入れてかざるようにしている。(30才代)
- ・子どもは大人が思う以上に周りの環境にびんかんに反応し、変化があると喜びを表す。そこから生まれる気付きや保育者とのやりとりが発語につながり、感性を育てる要因にもなるのではないかと。(30才代)
- ・保育指針にも「身近な環境に自分から関わり発見を楽しんだり、考えたり生活に取り入れたりする」とある。数、工、道徳性、自然との関わり、言葉による伝え合い、豊かな感性と表現、自立心等、就学までに養いたい10の姿の中に共通の理解の上で必要であると考え。子どもと一緒に考え、作りあげ、足りないものや発見した事を増やしていくのも良いと思う。(30才代)
- ・保育室の壁面は毎月の制作をメインに作っています。掲示の仕方も様々な工夫をしています。掲示の場所や貼り方をアレンジしたり、子どもの写真を使ったものなどは、子ども保護者の方もいつも以上に興味を持っていてくれると思います。(30才代)
- ・壁面について改めて考える機会になりました。保育室の壁面は子どもの作品を飾っています。その季節に合わせて変えています。その年齢に合わせて製作の方法を考えてしています。3歳児では、ハサミのりを使って制作をしています。日々の保育の中でもハサミを使う時間を作りながら上達していけるようにしています。線に沿って切ることができるようになり、それを壁面構成に取り入れ、保育室に飾り、保護者の目に入るようにしています。(20才代)
- ・月に1回、壁や窓の環境が変わると子どもたちも気付いて指を指して教えてくれることがあります。その度に変えただけで大事なお仕事の一つだと思います。(20才代)
- ・壁面はその季節を感じたり、トイレにも動物の壁面があるだけで子どもが興味を持ったりと様々な必要性はあるものの貼る場所やレイアウトの仕方によっては、たくさん絵でごちゃごちゃしてしまい、そこに子どもの目が向く事で伝えたい事が伝わらなかつたりすると思うので、飾り方やデザインは考えている。(20才代)
- ・それぞれの園によって、異なると思います。私は、ないはないでさみしいけれど、絶対に作らなければならないとなると、少ししんどくなると思うので、子どもが朝や夕方にしたちよつとしたものをクラスに掲示しています。授業の時間にも季節をイメージしたものを作るようにしています。(20才代)
- ・子どもは自然に壁面を見ているものです。その中で目に映る場所に子どもたちの好きな壁面を置き、季節の変わり目や生き物を知らせていける機会だと思っています。壁面で少しでも子どもたちの感性に繋がれば良いと思います。(20才代)
- ・子どもの育ちに必要な五感を育てる上で視覚から入る情報はとても大事だと思います。壁面だけでなく空間やドアや小さなすき間など、子ども達はいろいろな所を見て感じとり学びます。(20才代)
- ・月ごとに壁面が変わると子どもたちはすぐに気付き、子ども同士での会話もうまれてくることに改めて気付きました。その月ごとの保育の目標なども時には取り入れると、絵本と照らし合わせながら「ここにもあるよ」「いっしょだね」と指さす姿もあります。子どもの意欲につながっていると実感している為、今後も様々な事に配慮しながら作っていきたいと思います。(20才代)
- ・壁面構成は保育の中でも大切な存在です。このように保育は無限に幅広くさまざまな所で子ども達の成長を促す教材になります。私達保育現場で子ども達と接している中で一つでもお役に立てる事がありましたら、今後も協力していきたいです。(50才代)
- ・壁面構成を考えたり、作成する事は保育をするうえで大切であるとは思いますが、必要以上に時間をかけるのは保育士にとっては負担となる場合もあります。ラミネートをして、毎年使用できるようにしたり、耐久性のあるものを作る等の工夫をしています。(50才代)
- ・季節感を出す為の環境としては、あまり大がかりにせず、決められた場所に何気なく子ども達に季節を感じてもらえるようにしたらよいと思います。どこの園でもよくされていると思いますが、子ども達の作品を飾ってあげ、その周囲に保育者がその季節のものを作っているのは保育者の負担もあまりなくいいと思います。又、環境として使う季節感のある物は、すべてラミネートをしており、毎月、必要な物だけを取り出して使うようにしています。(季節毎に分けて、保管しています。)(60才代)

(原文ママ)

いう意欲につながる」、「子どもと一緒に考え、作り上げ、足りないものや発見したことを増やしていく」という正に保育の基本的な姿勢だと考える。

アンケート調査の結果から総じていえることは、保育者は「保育室を、家庭でも学校でもない特別な空間として捉えている傾向」があり、「その生活空間であり遊びの空間でもある保育室を飾る壁面もまた、この特別な空間作りに大きな影響を与える重要な要素であるという認識」を持ちながら制作しているということであった。そして保育者は保育室を、「生活空間である」「遊び空間である」と捉え、幼稚園教諭はその2つの観点と同等に「教育空間である」と捉えているというように、保育施設の種類によっても保育者の空間の捉え方が違っていることも明らかになった。このように、現代の保育の中で壁面構成は、保育室の中に雰囲気醸し出す装飾という意味を越えて、子どもに影響を与える環境の中の重要な一つの要素だと理解されている。

以上、本章ではアンケート調査の結果から壁面構成の現状について報告した。

3. 壁面製作をする上での留意点

本稿を執筆するにあたり、高松市内の私立保育所や幼稚園、幼保連携型認定こども園を数園訪問し、壁面構成を取材した。その中で、保育施設の様々な条件下の中で、保育者は工夫して壁面構成をしている状況が分かった。中でも、好事例と少し気になる事例とを数点紹介する。

はじめに、子どもの絵とその絵に関連するものごとを保育者が制作してレイアウトした事例である。次の【図13】、【図14】は、市内A園の子どもたちの作品に保育者がテーマに沿って、少し装飾をした効果的な事例である。



【図13】



【図14】

【図13】では、「夏休みのおもいで」と題して、子どもたちの作品（海で遊んでいる場面）と保育士が岩場や海藻、魚などを色画用紙等で制作し、共同でレイアウトしている。ここで注目するのは、子どもたちの作品が飾られているところから離れているところ（右出入口の上部）にも岩場等をレイアウトしている点である。壁面全体を使って、場面の広がりを見せている好事例である。

【図14】は、子どもたちが制作した作品に保育者が制作した泡をレイアウトしている。簡単に直ぐにできることを上手に子どもたちの作品と関連させている。また、その右側には、さりげなく装飾がされていて夏らしい雰囲気を保育室内に作っている。

このように子どもたちの作品と関連させた「壁面構成」というものが、保育現場では主流となっている。また、このアンケートを通して「壁面構成の在り方について考えるきっかけになった。」との記述も見られ、今後保育者一人で考え込まずに園全体で情報を共有し、さらに協力して保育者をサポートしていくべきものとする。

次は、取材した園で、造形表現上、共通して気になる点を3点見出した。

1点目は色彩の明瞭性である。つまり、隣同士の「色が合う」「合わない」などの色彩調和は考慮するが、全体感としての調和を調整することが不足している。それは、保育者が製作するとき色彩の明度差を見る習慣がない上に、そういった見方が養われていないためである。具体的なカラーデザインを計画する場合、必ず背景の色と文字や柄の色との配色効果を計算しながら具体化していく。またインテリア・建築など、空間の色彩計画の場合も、大きな面積を占める色とコーディネートする色彩との関連で、“色の見えの効果”は重要な要素の一つなのである。使用される色の面積の大小によって、色の見え方は変化する。「色の面積効果」は、小さな面積より大きな面積の方が、明るく、より鮮やかに感じるのである。反対に、暗く感じる色は、面積が大きくなると、いっそう暗く感じるのである。このような色の面積効果を計算しながら色彩計画を実施する必要がある。

【図15】は、B園の誕生日会の看板である。カラーテープや様々な素材を使って、丁寧に作られ色彩的にも美しい。しかし、上段の「た」「ん」「じ」「よ」「う」「び」の6つの文字と下段の「お」「め」「で」「と」「う」の5つの文字が、瞬時に見る側に伝わらないのである。

上段の文字は暖色系で、下段の文字は寒色系にするなど製作者の工夫は見られるが、「じ」と「び」「う」の文字の明瞭性が低いのである。文字を白にするのは良いが、それぞれの文字の下にある丸い台紙の色が白に近いために明瞭性が低くなるのである。看板である以上は、まずこの11文字が目に入らないと看板としての視覚的効果は薄い。そこで、撮



【図15】



【図16】

った写真を元に文字の明瞭性が高くなるように著者が画像編集ソフトで写真を加工・編集した。その結果が【図16】である。明瞭性を高くするためには、「じ」と「び」「う」の台紙の色を、色相は変えずに明度差をつけたのである。このことは、製作する前の色彩計画の段階で考慮すべきである。こうしたことは、行事の看板に限らず、他の園の壁面構成でも散見できた。主役になるべきものの明瞭性が低く、瞬時にはっきりと目に入らないのである。

2点目は、造形要素の一つである「かたち」で、造形表現の専門的な立場からすると、非常に不可思議な印象を受けた構成があった。市内C園のあるクラスの壁面構成で、子どもの作品とともに保育士がその構成の一部を製作し、レイアウトをしていたところに遭遇した。【図17】の状態、これから子どもたちの作品を貼っていく直前であった。ここで注目したいのは、動物たちの「かたち」である。擬人化されている5匹の動物たちの中で「ひつじ」と「しまうま」だけが、下半分がないのである。他の動物たちは、全身が製作されている。時折見かける表現に子どもたちの顔だけが、画面に広がっている構成を見かけることがある。この場合は、全部が顔だけなので、余り違和感はない。地面に埋まっている、もしくは岩陰などに隠れている設定ではなく、この状態で構成していくのである。単にキャラクターをイメージとして扱っているものと思われる。しかし、このことは子どもたちにとって、不思議で、奇異に写るのではないだろうか。何よりも子どもたち情操を養う上で、問題だと考える。



【図17】



【図18】

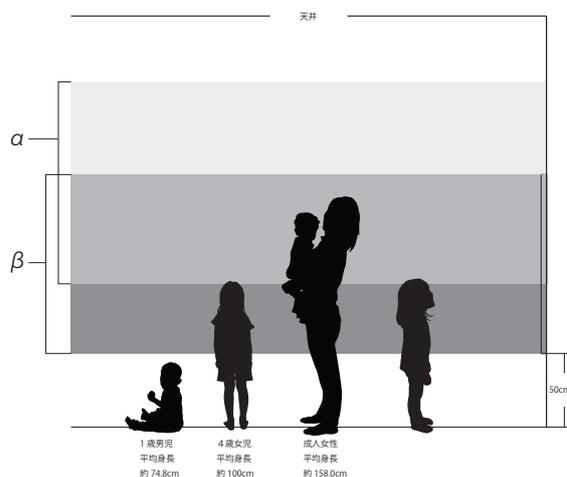


【図19】

そこで、【図18】のように「ひつじ」と「しまうま」のレイアウトを再構成した。壁面の下に「ひつじ」と「しまうま」を移動させることによって、他の動物たちとの遠近感も生まれ、奥行きや画面の広がりも出てくるのである。

もう一つの方法は、【図19】のように「ひつじ」と「しまうま」の下半身を製作するのである。これによって、落ち着いて見ることができ、レイアウトの面でもバランスが取れるのである。

3点目は、どこの園でもよく見かけるが、【図20】のように壁面構成の位置が子どもの身長よりも高く、



【図20】

子どもたちは常に見上げて鑑賞しているのである。床から約 1m 上がった所から天井近くまでの図中 α の範囲である。このことは、子どもたちにとって非常に見づらい状態と言える。どこの園も保育室の後ろに、子どもたちの道具等を入れる棚がある。その上の壁面に子どもたちの作品や様々な構成物を飾っている。子どもたちが作品に触ったり、悪戯されたりするのを回避しようとする保育者の思いである。よって子どもたちの手が届かない場所に構成されている。しかし、ゆっくり見たい、細かなところも見たい気持ちは子どもも大人と同様である。よって図中 β の範囲に構成すると、子どもたちも難なく鑑賞できるのである。

現実的には限られた保育施設の中で実現するのは困難を要するが、子どもたちのために短い期間だけでも工夫して取り入れることを、保育関係者へ切に願う。

子どもたちが生活する保育室には、様々な色彩が存在し、それが人間に与える心理的・生理的影響については、環境心理学や色彩心理学で様々な知見がある。彩度が高い色が保育室に配色されている場合、子どもは自分の遊びに集中できないと言われている。色は、筋肉組織の緊張度にも影響を与えていると言われている。人の体や心をくつろがせる色は、淡いパステルトーンであり人間の緊張を解きほぐしてくれる。反対に彩度が高い色は、筋肉の緊張度と興奮度を高めると言われている。

保育者は、このような色の持つ性質を活用して、季節によってパネルや棚のカバーの色を変えて季節感を演出したり、子どもの情緒の安定を助けたりして、いきいきと遊びに取り組む環境を作る必要がある。保育者は、保育室のインテリアコーディネーターの役割も果たしている。子どもの作品を廊下や壁に飾ることを想定している場合は、色彩の調和と素材選びに留意する。しかし、子どもが絵を描くときは色彩の調和などは考えていない。よって、強烈な色彩が突然現れるのである。保育室内の色彩のバランスがくずれた時は、影響する他の掲示物をはずしたり、入れ替えたりすることによって保育室内全体の色彩の調和を保つように、保育者は心がけるべきである。

4. 壁面構成の今後の在り方と方向性

壁面を構成する上で大切なのは、まず子どもの興味や関心、子どもの発達の状況など、子どもの姿を捉えることが大切だと考える。

次に、保育者自身の子どもに対する思いや願いを明確に持つことである。この 2 点から構想や計画を立てていくのである。子どもの発達を促すには、どのような構成が必要なのか、また、教材はどのようなものを用意したら良いのか。それには、園の方針と指導計画に照らし合わせながら展開する必要がある。子どもが主体的に関わり、保育者や友達と対話し、深い学びを獲得できることが大切なのである。構成した後の子どもたちの動きや活動を読み取り、もっとこうすれば学びにつながるなどと評価することによって、さらに壁面構成を再構成することで学びが広がったり、深まったりして保育の質が担保できるのである。

著者の専門である造形表現の観点に立って、今後、子どもたちのための壁面構成を目指すためには、どのように考えて構成していけば良いのかを提案する。

まず、構成するねらいを明確に持つことである。ここでは、造形の様々な表現を豊かにすることをねらいとする。保育者も子どもも表現し伝え合う場として壁面を捉えることである。そのため、子どもの

参加を前提とした壁面構成の可能性を考えることになる。

子どもの参加には、主に①素材や技法との出会い（もの）、②自己効力感・達成感（自分）、③他者理解（人）の3つの保育効果が見込まれる。そして、こうした効果は、視覚的な「心地よさ」によって支えられる。子どもが自由に掲示する時期があってもよいが、公的な空間である限り、長期的には「心地よさ」が必要である。こうした印象は、造形単位である点・線・面などが有機的によい調和をもっている力学的な構造（構図）によってもたらされる。構図の基本は「①反復：同形・同色といった同じ要素の繰り返し、②調和：類似したものが結びついている、③破調：異なる性質の要素によって単調な構造を破り緊張感を高める」の3つである。さらに具現化するものとしては、シンメトリー（対称）・コントラスト（対比）・プロポーション（比例）・グラデーション（諧調）などがあり、構図を調和させる構成原理」とされている。こうした原理を取り入れ、色彩調和や色彩心理に配慮することがポイントとなる。一人ひとり異なる子どもの表現を尊重し、こうした美の原理にもとづいた秩序ある壁面を構成することが、基本なのである。

おわりに

『保育所保育指針解説』には、「保育所の生活や遊びを繰り返す中で、様々につくり出されたり生み出されたりする音や動き、ものの形、色、手触りなどは、子どもの気づきを促し、感覚の働きを豊かにする環境として重要である。保育士等は、この時期の子どもが受け止められる程度のほどよい複雑をもった環境を構成することが求められる。」[2]とある。保育室は限られた空間のために、家庭よりも新奇性や複雑性が過度になりがちになる。保育者は、子どもの教育環境として、保育室が調和的な環境になるように刺激の質と量に配慮する必要がある。季節が感じられたり、家庭的な雰囲気や落ち着いた過ごせたりできる環境作りも重要なポイントである。そして、経験の少ない子どもたちが家庭以外で長時間過ごす場所であるため、審美的な観点からも環境をデザインしていく必要がある。保育者自身が、美しいものに普段から接することで感性が養われる。

そのためには、保育者自身が日頃から自然に触れたり、美術館で芸術作品を鑑賞したりして様々なものに触れ、審美眼を身につけてもらいたい。そのことが、子どもたちの感性や表現など有形無形に伝わるのである。

今後、壁面構成が子どもたちに、どのような影響を与えるのか、また今後の可能性など推論の域を出ていない点は大きな課題である。これらの課題を解決するために、本研究でアンケートの協力を戴いた教育・保育現場の研究協力者と一層の連携を深め、壁面構成の実際や幼児の実態、教員・保育者の実態把握に努めていきたい。

また、授業でも壁面構成の製作を取り上げ、造形教育的な観点から形や色、素材について研究を推し進め、本稿における理論と実際の教育・保育現場での実践が往還できる研究を目指していきたいと考える。

謝辞

本稿執筆にあたり、今も新型コロナウイルス感染症がパンデミックな状況であり、感染症予防対

策等で多忙な中、取材やアンケートに回答して戴いた各保育所、幼稚園、幼保連携型認定こども園の所属長及び保育者の皆様に深謝の意を表す。

引用文献

- [1] 文部科学省『幼稚園教育要領総則』2017年, p. 3.
- [2] 文部科学省『幼稚園教育要領』2017年, p. 17.
- [3] 厚生労働省『保育所保育指針』2017年, p.46.
- [4] 厚生労働省『保育所保育指針』2017年, p.153.
- [5] 鈴木法子「壁面構成とは何か1 - 明治期の幼稚園における壁面構成の萌芽 - 」日本保育学会第50回大会研究論文集, 1997年, pp.474-475.
- [6] 塚本敏浩『幼稚園・保育所における壁面構成の現状と展望』名古屋経済大学, 教育保育研究紀要第4号, 2018年, p25.

参考文献

内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』2017年
UserLocal テキストマイニングによる分析